

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

* 上段は前期比在庫増減、中段 [] は在庫水準、下段 () は在庫水準前期比 (%) (自社所有分に限る。
点線内は全鉄連による予想数字 () 内は誤差率=予想値÷実績

令和元年11月末	令和2年2月末	令和2年5月見通し	令和2年8月見通し
—25千トン [2287千トン] (99.4%)	—7千トン [2280千トン] (99.6%)	—11千トン [2269千トン] (99.5%)	—4千トン [2265千トン] (99.8%)
2289千トン(99.9)	2340千トン(97.4)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和元年12月末	令和2年3月末	令和2年6月見通し	令和2年9月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は88,600円で前年比-1,700円、前期比-500円。秋需の気配は多少感じられたが、昨年のような秋需の盛上がりはなかった。土木関連で多少動きが見られたものの大型物件が少なく、建築は端境期で低調であった。流通は需要の盛上りがないため仕入を抑えたが在庫の過剰感はぬぐい切れなかった。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は86,900円で前年比-3,400円、前期比-1,700円。需給にタイト感のない状況が続く中、新型コロナウイルス感染拡大の影響により更に環境が悪化した。全般的に低調な販売が続いていることに加え、市況が弱含んでいることから月を追うごとに採算が悪化する悪循環となった。	もともと低調であった需要に加え、新型コロナの影響で更に販売は悪化し、在庫は過剰気味傾向が続いている。流通は仕入を抑えているが、5月の販売量は過去に例をみないような最も悪い結果となった。6月以降も低調な販売が続いており、市況は弱含んでいる。ここへきてスクラップ価格の反転により、メーカーは強気姿勢だが、流通市況の上昇は先と考えている。	中小ファブでは山積みの低い状況が継続しており、受注価格は値下がりしてきている。中小建築案件では景気悪化による中止や延期が一部で見受けられる。経済活動再開に加え、季節的要因からも多少需要回復を期待する声も聞かれるが、前年よりも大幅に減少するだろうという懸念が高い。全般的にスローペースで需要回復は期待薄、厳しい状況が予想される。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

5月の仕入量は142,816トン前月比-7.7%、前年同月比-19.7%、販売量は145,069トン前月比-12.7%、前年同月比-18.4%。仕入量は前月比減少、前年同月比著減。販売量は前月比、前年同月比とも著減しました。在庫量は212,682トン前月比-1.0%、前年同月比-18.8%、在庫は前月比減少、前年同月比は著減しました。在庫率は146.6ポイントと上昇しました。

5月の販売量は、過去に経験したことがないような最も悪い結果でした。仕入を抑えているにもかかわらず、販売の悪さで在庫率は17.3ポイントも上昇しています。もともと低調だった需要に加え、新型コロナの影響で更に悪い状況となっています。

4. 大阪の動向

(大阪) コロナ禍の中、荷動きは5月も4月と日当たりでは大きく変わらず、6月に入っても同様に推移している。6月の稼働日数、緊急事態宣言解除、スクラップの急伸によりメーカーも値上げ方向で、販売数量は4月以上になると予想される。

市況はコロナ禍で先行き不安のため相場の基調は弱く下げていたが、メーカーの値上げ方向により安値解消には向かうであろう。ただ販売価格への転嫁には苦勞するものと思われる。今後は、コロナの二次感染拡大の可能性もあり、ワクチン・治療薬が出来るまで不安は常に付きまとう。建築需要は中小物件需要減退が市中品の荷動きに大きく影響してくる為、7月—9月は厳しい状況が予想される。ウイズコロナではないが、経済活動の段階的な再開により徐々に需要は回復する事を期待したい。